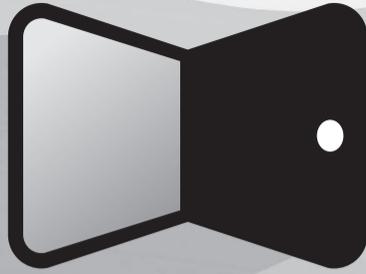


OAAAは今年60周年を迎えます

一般社団法人 大阪アドバタイジングエージェンシーズ協会



アドノドア

ひらけOSAKA2025

## 60周年記念特集

大阪アドバタイジングエージェンシーズ協会は、1965年に「大阪新聞雑誌放送広告業者協会」として創設され、輝かしい60周年を迎えることとなりました。

半世紀余にわたり、広告が持つ創造力とその真価を世に広く示し、大阪の広告業界の礎を築いてこられた加盟各社の皆様に、心より深甚なる謝意を表します。

この節目にあたり、私たちは『アドノドア ひらけ OSAKA2025』を道標として掲げ、若手・中堅のアドパーソンが企業の垣根を越えて交流し、絆を育む場を創出すべく、記念事業を実施いたしました。未来へと続く扉をともに開き、新たな価値を創造する契機となることを願っております。

### 「創立60周年 記念講演会及び懇親パーティー」は、総勢約180名の参加者を迎え盛大に開催された。

大阪アドバタイジングエージェンシーズ協会の「創立60周年 記念講演会及び懇親パーティー」は、2025年11月10日(月)にグラングリーン大阪南館パークタワー4階「コングレスクエア グラングリーン大阪」にて記念講演会を、同じく4階「sorappa DINING (ソラッパ ダイニング)」にて懇親パーティーを開催した。

記念講演会は、テレビプロデューサー 佐久間宣行氏をお迎えし、盛大に開催。

第一部では、『「ごきげん」が「アドノドア」をひらく』をテーマに、佐久間氏より「良い仕事」を実現するためのメンタルの整え方、仕事術、そしてマネジメント術について、示唆に富むご講演を頂戴した。

続く第二部では、佐久間氏と若手アドパーソン3名による座談会「その悩み、佐久間さんに聞いてみよう」を実施。率直な意見交換が繰り広げられ、会場は熱気と笑いに包まれた。(詳細は中面に掲載)

17時からは「sorappa DINING (ソラッパダイニング)」にて懇親パーティーを開催。

佐久間氏にもご参加いただき、泉理事長の開会挨拶を皮切りに、佐久間氏からの祝辞と激励の言葉が続き、大阪広告協会・小田専務理事による乾杯の発声で華やかに幕を開けた。

パーティー中盤では、新通の杉村氏より60周年コンセプトに込めた思いをご説

明いただき、さらに9月17日に実施したOAAA60周年記念若手座談会『「アドノドア」を開くために』のダイジェストPVを披露し、会場の熱気は一層高まった。

今回の60周年記念事業では、今後5年、10年後に広告業界の真の担い手となる若手アドパーソンに集っていただき、縦横のつながりを築くこと、そして「自らのアドノドアをひらく」きっかけを感じてもらうことを基本方針として推進し成果が結実。

当日は、9月17日の座談会参加者や「OSAKA未来プレゼン大賞」歴代受賞者など、60名を超える若手アドパーソンが集結。若手同士の交流はもちろん、ベテランとの垣根を越えた語りも生まれ、会場は活気と笑顔に満ち溢れていた。18時半、創立60周年記念事業準備委員会・鹿毛委員長による中締め挨拶をもって、協会のさらなる発展を祈念し、盛会のうちに閉幕した。



### 60周年のコンセプト「アドノドア ひらけOSAKA2025」

#### 「アドノドア」に込めた思い

新通 クリエイティブディレクター 杉村 典行 氏

私たちが掲げるモチーフは「開かれたドア」。それは、次世代の心の扉を開く象徴です。この言葉を回文「アドノドア」としたのは、上下の隔たりなく、誰もが自由に交流できる場を表現するため。

ドアは、ただ開けるものではない。まずは「叩いてみる」—その一歩が大切。若い皆さんには、ぜひ遠慮なく叩いてほしい。

その音が重なり合うことで、さまざまな形の「アドノドア」が開き、大阪のクリエイティブはさらに躍動するはず。



アドノドア

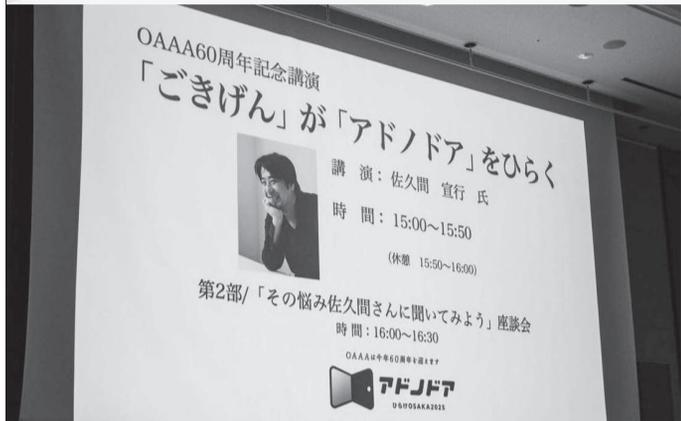
ひらけOSAKA2025



第1部

# 佐久間宣行氏による60周年記念講演 『「ごきげん」が「アドノドア」をひらく』を開催!

テレビプロデューサーとして数々の地上波番組や配信コンテンツを成功に導き、さらにラジオパーソナリティやバラエティ番組のMCとしても活躍する佐久間氏。メディアの垣根を越え、多彩な才能を発揮し続けるその姿は、まさに時代を牽引する存在。「たかが仕事、たかが会社」。しかし、その歯車がうまく回り始めるだけで、人生は大きく好転する——。「ごきげんに生きよう」を人生のテーマに掲げ、常に楽しく前向きに仕事に取り組む佐久間氏。長い時間をかけて悩み、失敗を重ねながら自分と向き合い、より良い関係性を模索する中で掴み取った、心を整える方法、仕事術、そしてマネジメントの極意。その真髓を余すところなく語って頂いた。講演後、会場を後にする来場者の表情は、入場時とは見違えるほど晴れやかで、口々に喜びと感銘の言葉が交わされており、心に深く響く、珠玉のひとつであった。

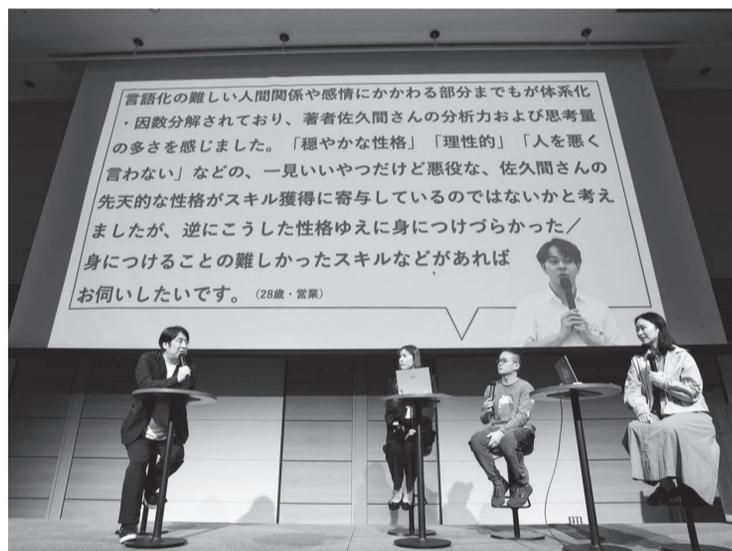
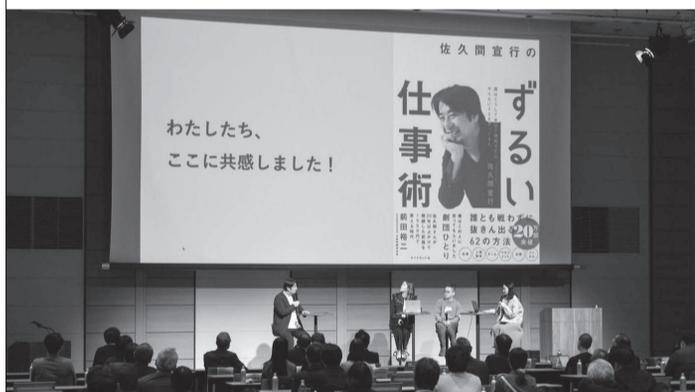
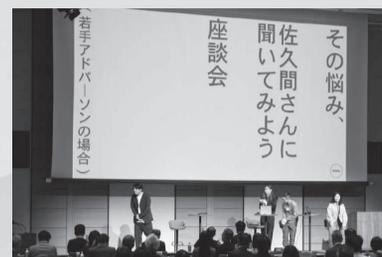




## 第2部 「その悩み佐久間さんに聞いてみよう」座談会

第二部では、Q&A形式によるトークセッションを展開。過日開催された座談会の内容を踏まえつつ、若手アドパーソンたちが抱える悩みや疑問に対し、佐久間氏から直接アドバイスをいただいた。

若手を代表して、座談会でファシリテーターを務めた博報堂の原田氏、大広の有吉氏、電通の岩田氏が、佐久間氏に相談を寄せる形で進められた。



**Q1** 「好き」という気持ちが仕事や趣味の原動力になっているが、体力や気力の低下により、いつかの「好き」という原動力に寿命が来てしまいそうで不安。「好き」を持続させるためにはどうすればいいですか？ (22歳営業)

**佐久間**：自分のライフワークバランスの中で、「好き」を持続するための優先順位を決める事が大事。例えば僕は映画・演劇が好きだが、子育ての時期は、劇場で観るのは週1回と決めていた。あとは“自分なりのインフルエンサー”を持つことで、探す手間を省いている。

**Q2** 著書を読んで、佐久間さんの分析力および思考量の多さを実感。「穏やかな性格」「理性的」「人を悪く言わない」といった先天的な性格がスキル獲得に寄与しているように感じた。逆にこうした性格ゆえに身につけづかった/身につけることの難しかったスキルがあればお伺いしたい。(28歳営業)

**佐久間**：性格というより、自分を俯瞰で見ることが得意だったことが大きい。俯瞰

で見ると自己評価が高くない。だから無謀なことはあまりしないが、無謀な挑戦をして獲得できるものもある。難しかったスキルは、芸能界における社交力。苦手でも無理に社交性を身につけたりせず、日頃から付き合いが悪いというキャラを獲得することが大切だ。

**Q3** 企画をやっていく基盤として、過去や今の良い文化を摂取するには、あまりにも時間が足りない。ない時間の中で、という前提なのでしょうか。(25歳クリエイティブ)

**佐久間**：映画は朝一の映画館(笑)か、iPadにダウンロードして移動中に観ることが多い。加齢による体力の衰えも感じるので、自分の体力と時間に向き合いながらやっている。過去や現在の良い文化を摂取するには、20代のうちに面白いものを見つけ方メソッドを身につけておくことが大事だと思う。

**Q4** 小さなヒットを積み重ねて打率が高いことよりも、打率が低くても大きなホームランを打った人が評価されがち。

特に上の立場の人は小さな積み重ねは視界に入らず、大きなホームランだけニュースになって上申されていく。自分の評価や存在価値を高めていくためには、ホームランを虎視眈々と狙うしかないのでしょうか？ (26歳ストラテジックプランナー)

**佐久間**：26歳としてはこの考え方は根本的に間違っている。上司は今の評価軸しか持っていない。そこにある程度はコミットするが、大事なことは上司には評価できないジャンルでどう仕事していくか、だ。上司に合わせていくと、合った頃には時代に遅れている。偉い人にもわかるよう仕事をしつつ、若手は常に「わかられてたまるか」という仕事をやらなきゃだめ。そんな風に自分の好きなものが生きていく場所は作っておいた方がいい。信用を積み重ねておくと、自分の好きなことをやる時に必ず生きてくる。

**Q5** テレビ界を苦手だとしつつも長年ヒット番組をつくってこられました、続ける・やめるの判断軸はどこに置いていますか？

**佐久間**：結構エゴサをやるし、YouTubeのコメント欄もチェックしている。そういう評価の他に、現場が飽きてないかも見ていて、一つだけの基準ではない。レギュラー番組はできるだけ当たりハズレのあるものを作っていこうと思っていて、これが長く続く理由。当たった部分は増やすが、ハズレもやめない。時代と寝すぎると終わるからだ。

**Q6** 3～5年の中長期目標はどうやって見つけていますか？

**佐久間**：45までの武器で、この武器が通用する場所で50まではやってみる。笑いの知見はホラーに活かせると思っていて、それをどこかでやるかもしれない。あとYouTubeの中でまだ辿り着いていないものをやってみよう。日本のおじさん/おばさんに、年を取るの楽しいと伝えるコンテンツをやってみよう。

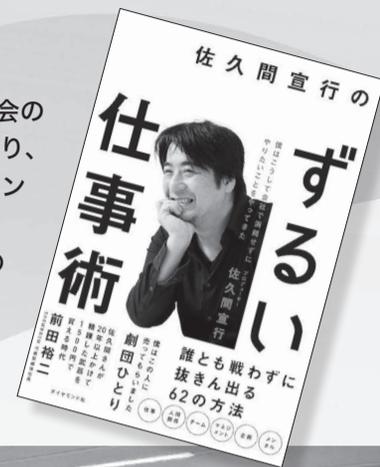
**全員**：ありがとうございました。



# 60周年記念の若手座談会「『アドノドア』を開くために」を開催！ 24社から51名の若手20代が参加。

記念講演に先立つ9月17日、広告業界の若手アドパーソンたちによる座談会を実施。冒頭では60周年を記念した当協会のコンセプト「アドノドア ひらけOSAKA2025」を紹介。考案者である新通のクリエイティブディレクター・杉村氏より、コンセプトに込められた想いや願いが語られた。座談会は事前に佐久間氏の著書「ずるい仕事術」を読んでもらい、アンケートを実施。その結果をランキング形式で共有した。

ランキング上位の回答者には、エピソードを交えながらそれぞれの意見を発表していただいた。当日は24社から51名の若手が集まり、9グループに編成して座談会を開始。若手を代表して3名のファシリテーター、原田真由氏(29歳・博報堂/CR)、岩田奎氏(26歳・電通/CR)、有吉周子氏(29歳・大広/営業)が進行。グループディスカッションでは仕事の悩みや課題なども語り合い、座談会終了後には懇親会を開催し親睦を深めました。



## プログラム内容

### 1. ランキング発表

#### ◎共感できた箇所・実践できている箇所

- 第一位 : 楽しそうを最強のアピールにする
- 第二位 : ちょっと無理をする
- 第三位① : 「すぐやる人」が結局残る
- 第三位② : メンタル第一、仕事は第二
- 第三位③ : 褒めるは最強のビジネススキル

#### ◎共感はあるが思い通りにいかない箇所

- 第一位 : 「すぐやる人」が結局残る
- 第二位① : らしくない仕事をやってはいけない
- 第二位② : 自分の「キャラ」を理解する
- 第二位③ : 企画書はラブレター

#### ◎今後実践してみたいこと

- 第一位 : 企画こそ仕組みで作れ
- 第二位 : 会議後の「5分」で差をつける
- 第三位① : まだ早いをあざとく使え
- 第三位② : 部下の仕事は引き取らない

### 2. フリーディスカッション

テーマ1は実践できていないこと・悩みなど、テーマ2は佐久間さんの見解に対する意見や反論。それぞれ各グループでディスカッションし、最後に代表者が発表。

### 3. 懇親パーティー

座談会終了、当イベントを企画・主管したOAAAの事業委員会の委員メンバーも参加して懇親パーティーを実施。若手同士での交流や、若手とベテランの交流が育まれた。

事後の参加者アンケートでは、この座談会に参加できてよかったとの意見が8割超。

「同年代、同業界の方々とのように一堂に集まる機会はなかなか無いので共感や刺激があった」、「自分が迷ったり悩んだりしている部分を同じように悩んでいる人がいたり、逆にその部分を自分なりに解決したりうまくこなしている人がいたり、色々な人と意見交換ができ新たな発見もあり参加できてよかった」、「座談会の刺激が、焦りを生むものではなく、意欲を生むものに更に昇華した気がした」

「佐久間さんのずるい仕事術」の購読や座談会を通じて、「自らのアドノドアをひらく」きっかけや発見があったと答えた参加者は9割超。

「共感できる仕事術や自身の仕事に取り入れたい仕事術に出会えた」、「これまで振られた仕事をこなすことが多かったが、自分のキャラを考えそれが活かせる仕事ができればもっと仕事が楽しいだろうなと思った。まずはキャラクターは何かの自己分析したい」、「読むだけで自身の中にとどめてしまうだけの知識になりがちだが、座談会で皆様の意見や感想を伺って、新たな解釈や発見があった」、「テーマが絞られているので積極的な議論があり、話が盛り上がった。また、佐久間さんの本の内容も分かりやすく、共感できる部分や新しい発見につながることが多かった」との意見が寄せられた。

座談会当日の様子は  
こちら！

